

GTG Gluskin Townley Group が一般財団法人自転車産業振興協会向けに作成

米国自転車市場レポート2014年2月号補遺

米国自転車市場情報

米国の自転車専門店の販路

表1は2013年1～12月の期間における、米国のブランド及び供給業者の自転車店向け新車自転車の販売について2012年と比較しながら示したものである。

表1 米国の自転車専門店販路の自転車店向け卸販売
2013年1～12月と2012年1～12月との比較

| | 台数 | 金額 | 平均単価 |
|------------|-----------|-----------------|----------|
| 2013年1～12月 | 2,355,742 | \$1,055,291,877 | \$447.97 |
| 2012年1～12月 | 2,606,729 | \$1,122,820,319 | \$430.74 |
| 変化 | -250,987 | -\$67,528,443 | \$17.23 |
| 変化% | -9.6% | -6.0% | 4.0% |

出典：レジャートレンドグループ、自転車製品供給業者協会、
グラスキンタウンレイグループによる分析

米国の自転車店向け販路の新車自転車販売台数は年毎の比較で10%減少した。より詳しく説明すると、2013年1～12月の期間においては2012年同期と比較し、ブランド及び供給業者からの自転車店向け新車自転車販売台数が25万台以上減少した。

2013年1～12月にブランド及び供給業者から自転車店向けに販売された自転車の金額については、2012年同期と比較しUS\$6,750万、6%減少した。

自転車店向け卸出荷金額の減少幅は、2013年1～12月の米国の自転車店向け新車自転車卸平均単価が2012年同期と比較し4%、即ちUS\$17上昇していなかったなら、更に大きくなっていただかもしれない。

表2は2013年12月末にブランド及び供給業者が持っていた新車自転車在庫について、2012年同期と比較しながら示したものである。

ブランド及び供給業者が2013年年末に持っていた新車自転車在庫台数は2012年年末に比べ9%、即ち6万台強減少した。

表2 米国自転車専門店販路 自転車在庫
2013年12月末と2012年12月末との比較

| | 在庫総台数 | 総卸金額 US\$ | 平均単価 |
|-----------|---------|---------------|----------|
| 2013年12月末 | 629,608 | \$224,189,744 | \$356.08 |
| 2012年12月末 | 689,843 | \$237,384,419 | \$344.11 |
| 変化 | -60,235 | -\$13,194,675 | \$11.96 |
| 変化% | -8.7% | -5.6% | 3.5% |

出典：レジャー・トレンドグループ、自転車製品供給業者協会、
グラスキン・タウンレイグループによる分析

2013年年末の新車自転車在庫卸金額は2012年年末に比べ6%、即ちUS\$1,300万減少した。

ここでも同じことが言えるのだが、2013年年末の新車自転車在庫の平均卸単価が2012年に比べUS\$12、即ち3.5%上昇していなかったら、総卸金額の減少は更に大きくなっていただかもしれない。

米国において、ブランド及び供給業者からの自転車店向け新車自転車販売がこのように減少している事は懸念事項である。というのは新車自転車販売を10%も減少させるような明らかな理由が経済統計を見ている限りでは見つからないからである。

天候はあまり良くなかったが、自転車店の販路においてこれほど大幅に減少させるほど悪かったわけではない。2014年1月号補遺で示したその他の要因が米国の自転車市場消費に悪い影響を与えており、自転車業界は仕事の仕方を変えない限りこのような状況が続くことは間違いない。

ファットタイヤバイクについて

米国の自転車市場は一層地域的になってきており、この地域的特性から隙間製品が現れてきている。ファットタイヤバイクは冬の期間中に普通に自転車に乗る事が、良くて難しいか或いは不可能になる、東北中部および西北中部(中西部)地区で36カ月ほど前に登場したものである。

ファットタイヤバイクはオハイオ州からミネソタ州、そしてノースダコタ州、ワイオミング州といった冬の気象条件が最も厳しい地域で乗るように設計されたものである。



この写真は最近ミネソタ州のミネアポリス・セントポール地区で開催されたファット タイヤバイクのレースイベントの写真である。ファット タイヤバイクのブランドには Surly, Fatback, Cogburn, TommiSea そして Fat Sand Bikes 等がある。小売価格は US\$1,200～US\$3,000 である。

ファット タイヤバイクが雪の多い地域で登場すると、またたく間に東部及び西部の沿岸地域、メキシコ湾岸、五大湖周辺等の地域で夏に砂浜で乗られるようになっていった。

ファット タイヤバイクが欧州、オーストラリア、ニュージーランド、その他の地域で人気が出るのには時間がかからないことは間違いない。

成人向け3輪リカンベントについて

リカンベントは米国市場で成長しており、我々が5年以上にわたり追跡している統計からは、少なくとも半分がそれ以上の販売台数は正規の業界統計には載っていないのではないかと疑っている。



出典 : Trikeasylum.com

我々は十分な調査を行った結果、2013年に販売されたリカンベントのうち50%以上はここに示したCatrike社の製品のような成人向けの3輪リカンベントであると結論付けた。

またリカンベントの販売店・ブランドそして関連雑誌によると、成人向け3輪リカンベントの半分以上は、初めて自転車に乗る人か、子供の時以来自転車に乗っていない人たちに売られているそうである。

成人向け3輪車を販売する自転車店にとって、主なセールスポイントの一つとして、「乗るのが庭に置く椅子に座るのと同じくらいとても簡単」という事があげられる。

興味深いことにファットタイヤバイクの特性が写真のように成人向け3輪車にも採用されてきている。クロスカントリーや砂地での利用が主であるが、南極のような寒冷・積雪地での利用にも道が開けてきている！



出典 : Trikeasylum.com

これは、南極を 10 日間で 500 マイル(800km)走るという競技で、ほかの二人の男性を破った Maria Leijerstam 氏、35 歳の写真である。

彼女は、このレースの為に制作された成人向け 3 輪リカンベントレース車を用いレースに参加した。この間、雪の吹き溜まり、視界が全く効かなくなるような猛吹雪そして氷河の割れ目に遭遇した。



出典 : Trikeasylum.com

米国市場や、前述のとおり欧州及びその他の市場において、ファットタイヤバイクと成人向け 3 輪リカンベントの融合に関心が注がれるまでに、英国人である Leijerstam 氏が登場する回数は、多くを要さないであろう。

Kent International 社が米国での自転車製造について発表

Kent International 社は、華々しい戦略的判断に基づき、1月23日に米国での自転車製造を復活させると発表した。同社は Walmart 社向けの第三グループの自転車供給業者である！ Kent 社の二代目オーナー社長である Arnold Kamler 氏は常に革新的なことで知られており、量販店販路向けにフィリピンから完成車を購入している米国で唯一の供給業者である。

米国最大の小売業者向けに、規模は比較的小さくても長年にわたる供給業者として、彼は全面的に Walmart 社の「米国製品優先購入」の活動に賛同した。翌日 Walmart 社は「Walmart は今後も米国産品の販売を促進する」という表題の報道発表を行ったが、その中で以下のように Kent 社について大きく言及している。

「当社は更に現在当社に供給を行っている Kent Bicycles 社が製造拠点を海外からサウスカロライナ州クラレンドンに移すという取組を早期に実施し成功したことを発表します。工場がフル稼働に達するのは2016年になるとみられていますが、その時には175人の雇用が生まれます。同社の本社はニュージャージー州 Parsippany にありますが、この秋に生産が開始される予定です」。

「当社は経費効率が遥かに高いため1990年に全ての生産を海外に移しました。昨年 Walmart 社が米国での製造回帰に関与することになって、私達も生産の一部をここで再開させるという事に開眼させられました」、と Kent Bicycles 社のオーナーである Arnold Kamler 氏は述べている。「私たちは8月に開催された Walmart 社の製造サミットに参加し、いち早くこの取組に的を絞ることができ、その結果サウスカロライナ州という事になったのです」。

我々は今後、この事が全てを、そして米国の自転車業界を、変えていくであろうという考えを持っている。これは製造回帰の始まりであり、おそらく1998年には当たり前となっていた米国向け新車自転車の海外生産の終焉になるであろう。これから2020年にかけて製造回帰の動きに注意していこう。

2013年は米国の自転車業界にとって変化の始まりとなる年であった。そして企業の合併吸収の動きのほか、2014年には、製造回帰の動きを含んだ「新潮流」の拡がりとともに、米国における自転車完成車・部品そして付属品製造に関する更なる投資について注視していかなくてはならない。

以 上